

伊豆鳥島の地熱徴候



北方上空から見た伊豆鳥島。噴気は全く見えない。

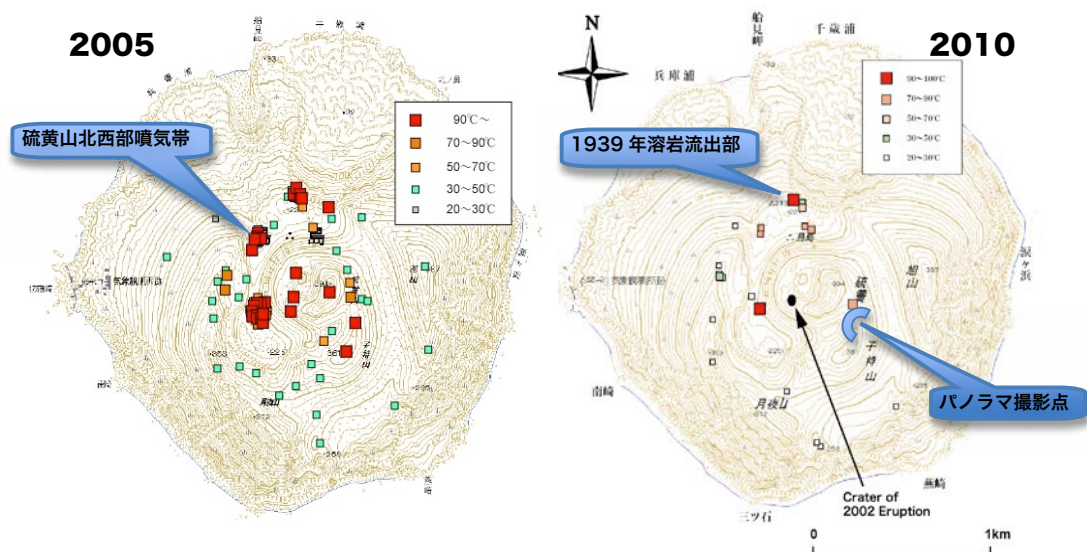
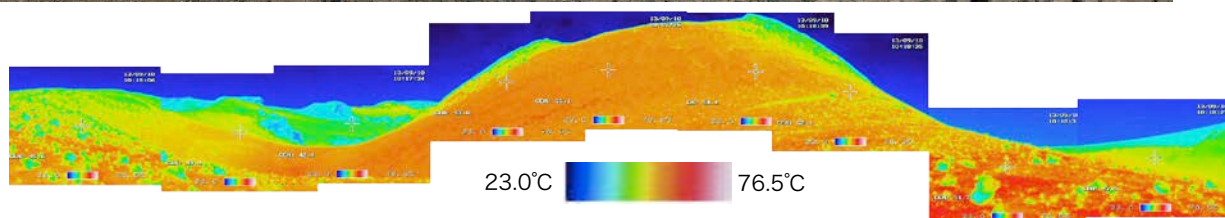
2013年9月10日に伊豆鳥島の現地調査を実施した。今回は滞在時間が短かったため、サーマルカメラによる調査のみ行った。

硫黄山北西部の噴気地帯は1957年以降2005年まで100℃を保っていたが、2010年は88℃まで低下し、今回の調査では噴気・硫黄臭気が全く無くなっていた。

また、千歳浦上部の1939年溶岩噴出口や子持山・硫黄山の高温地域もサーマルカメラによる調査では周囲の地表温度(40～50℃)と差がなかった。これらの状況から、伊豆鳥島は2002年の噴火以降は徐々に火山活動が衰

退しつつある状態と考えられる。なお、地震計記録では月に10～20回程度の火山性地震は2002年から引き続き記録されている。

図の作成には国土地理院発行の2万5千分の1地形図(伊豆鳥島)を使用した。また本調査には環境省関東地方環境事務所・山階鳥類研究所の協力を得た。



50cm 深地温分布 (左) 2005 年 9 月 (右) 2010 年 6 月 (第 117 回火山噴火予知連 九大資料)